

令和元年度第2回

市民動物園会議

会 議 録

日 時：2019年11月28日（木）午前10時開会
場 所：円山動物園内 動物園プラザ

1. 開 会

○事務局（神経営管理課長） 定刻となりましたので、ただいまから令和元年度第2回市民動物園会議を開催いたします。

私は、札幌市円山動物園経営管理課長の神と申します。よろしくお願いいたします。

最初に、資料のご確認をさせていただきます。

資料は、次第、座席表、設置要綱、また、資料1の委員名簿、資料2-1の円山動物園入園料等の見直しについて、資料2-2の収入年度別推移について、資料2-3の人口の将来見通し、資料2-4の国内主要動物園入園料等一覧及び市内公共施設高齢者・高校生割引状況、資料2-5の平成29年度第4回市民意識調査（抜粋）、資料3-1の円山動物園ビジョン2050実施計画（案）、資料3-2の実施計画の概要版、資料4-1の動物園条例の制定に向けた検討について（方針）、資料4-2の条例検討部会委員名簿、資料5の新着・出産、転出等動物についてです。また、追加で、年間の年度別、月別の入園者数について、プラスチック削減宣言についてです。

それでは、最初に、園長の加藤からご挨拶をさせていただきます。

○事務局（加藤円山動物園長） 皆さん、おはようございます。

本日は、お忙しい中をお集まりいただきまして、ありがとうございます。

この市民動物園会議は、我々の動物園の運営に幅広い市民の皆様のご意見と専門的なご意見をいただきながら運営していこうということで平成19年から設置されております。

先般、3月に開園100年となる2050年を見据えたビジョン2050をつくりまして、それに基づき、運営していこうというわけですが、市民動物園会議としても、そのビジョンに基づいてしっかりと運営されているかをご確認いただきたいということでございます。

また、任期満了に伴い、今回から新たに6名の方に委員にご就任いただいております。残念ながら欠席の方もいらっしゃいますけれども、今後とも円山動物園をぜひお願いいたします。

本日は、2時間ですが、さまざまなご意見をいただきたいと思いますので、ぜひよろしくをお願いいたします。

○事務局（神経営管理課長） 次に、委員の皆様をご紹介します。

最初に、私から名簿順にお名前をお呼びしますので、その後、各委員におかれましては、自己紹介をお願いいたします。

最初に、吉中委員からお願いいたします。

○吉中委員 酪農学園大学の環境共生学部で准教授をしております吉中と申します。

大学には、2017年4月から来ておりまして、国際環境ガバナンスといいたまうか、特に環境分野の国際的な条約や取り組みのほか、現場と地域の関係性みたいなことを勉強しております。市民動物園会議にはその年の10月から参加させていただいております。どうぞよろしくお願いいたします。

○宮本委員 北海道市民環境ネットワークという団体の理事をやっております宮本です。

専門家枠に入れていただいて大変恐縮です。環境についての教育は受けておりませんが、ネットワーク組織の事務局として、私の後ろに何百人もおりまして、そこに連絡をつける役目を担っており、環境関係のフォーラムやプログラムの企画をやっております。円山ではコープさっぽろとのどんぐりプロジェクトというコラボ企画をつくりました。そして、最近では、円山ZOOラジオを企画させていただいております。

どうぞよろしくお願いいたします。

○有坂委員 RCE北海道道央圏協議会の事務局長をしております有坂と申します。

RCEというのは国連大学が世界168カ所に認定する持続可能な開発のための教育にかかわる専門性を持った組織、人が集まった地域拠点を認定するものです。最近、SDGsが大変注目されておりますけれども、SDGsの達成も私たちの一つの大きなミッションとなっております。

札幌市とのかかわりとしては、フェアトレードタウンの推進プロジェクトを行っております。ことし6月1日に札幌市がフェアトレードタウンに認定されました。フェアトレードというのは、消費を変えることにより、途上国の生活はもちろん、自然環境を守っていくという意味合いが非常に大きく、日々の生活と動物、生き物とのかかわりについて、皆さんに広く知っていただければと思っております。

どうぞよろしくお願いいたします。

○土田委員 札幌観光協会の事務局長をしております土田と申します。

札幌観光協会は、夏まつり、オータムフェスト、雪まつりなど、いろいろなイベントをやっておりますが、今、有坂委員がおっしゃられたSDGsについては観光分野でも非常に叫ばれております。大通公園はイベント等で200万人が来るということもあり、啓発事業をするということも言われております。また、加藤園長がおっしゃったように、どうやってプラスチックを削減するのかについて、まだ実現はできておりませんが、いろいろと検討しております。

動物園会議を通じ、世界的な環境に関する意識も参考になりますけれども、動物園が、今後、市民を初め、生活する人にとって有意義な場所になるよう、観光的な観点から少しでもお話しできればと思って参加させていただきます。

よろしくお願いいたします。

○後山委員 テレビ北海道の後山と申します。

私は、テレビ北海道では、主に事業、イベントを担当しており、札幌ドームを使っただけの市民マラソン大会、美術展、文化イベント、子どもイベントなど、さまざまなことをやっております。ですから、マスコミの事業としてのご意見を言えたらと思っております。

どうぞよろしくお願いいたします。

○矢野委員 認可地縁団体である円山西町町内会の会長をしております矢野と申します。

平成27年9月1日から市民動物園会議の委員となっております、いつの間にか一番

の古株になりました。町内会は、人口が3,300人ですが、地域人口としては、西円山病院が2,000人、真如苑にも2,000人が来ますので、マックスで7,500人がここに来ます。開拓が入ってから125年がたっており、町内会加入率は85%です。

今後も動物園のために提言していこうと考えております。

○太田委員 おはようございます。太田朋子ビジネス工房代表の太田と申します。今回、市民委員として参加いたします。

私もRCE北海道道央圏のメンバーでもあり、現在は、女性起業家やNPO法人などの起業のご支援をさせていただいており、中小・零細企業のコンサルティングも行っております。

また、SAPPOROBIKEPROJECT合同会社という、札幌に自転車文化をつくろうという活動をしております。

経営という面に関して何かありましたら忌憚なく発言させていただければと思っております。

よろしく願いいたします。

○伊藤委員 おはようございます。

きょうは名刺を切らしてしまって、名刺をいただいた方には大変失礼してしまいました。伊藤と申します。

この夏まで東京で週刊誌のデスクをしていました。ただ、思うところがあって北海道に移住しました。円山動物園とのご縁で申しますと、週刊誌をやっていたとき、マレーグマのウッチーの事件が起こり、それを担当しておりました。そのときの円山動物園の対応は非常に真摯だったというのが印象に残っております。

マスコミを相手にしたときに隠蔽することが一番まずいのですが、その初期対応が非常に完璧だったということが非常に印象に残っております。札幌に移住してきたとき、広報誌で募集しているのを見まして、何かのご縁かと思い、応募させていただきました。

よろしく願いいたします。

○事務局（神経営管理課長） 本日は、相原委員と金沢委員からは所用のために欠席するというご連絡をいただいております。

続きまして、事務局のご紹介をさせていただきます。

○事務局（小菅参与） 小菅と申します。

4年前から動物園のお手伝いをさせていただいております。市民の皆さんと動物園が一緒に何かをつくっていくのは私としては初めての経験で、すばらしい制度だと思っております。

よろしく願いいたします。

○事務局（加藤円山動物園長） 改めまして、園長の加藤です。

動物園の園長になり、3年半がたちました。ネットワークもだんだんとできてきて、やっと園長らしい仕事ができるようになってきたので、しばらくは園長をやらせてもらいた

いと思っております。

きょうはよろしくお願いいたします。

○事務局（山本飼育展示課長） 飼育展示課長の山本と申します。出たり入ったりしながら動物園で14年ぐらい勤務しております。よろしくお願いいたします。

○事務局（黒川動物診療担当課長） 動物診療担当課長の黒川と申します。

昨年4月に円山動物園に参りましてまだ1年半ですが、以前は、動物管理センターで、円山動物園を含め、展示施設の許可等の事務をしておりました。

どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局（神経営管理課長） 経営管理課長の神です。

動物園は3年目となりました。仕事は、飼育、動物診療以外の一切を裏方としてやっております。よろしくお願いいたします。

2. 委員長・副委員長の選出

○事務局（神経営管理課長） 次に、委員長の選出に移ります。

この委員会は、お配りしております市民動物園会議設置要綱に基づいて運営しておりますが、第4条では、委員会には委員長を置くこととし、委員の互選により選出することとしております。

委員長の選出につきまして、特にご意見がなければ、事務局から案を提示させていただきたいと存じますが、よろしいでしょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○事務局（神経営管理課長） それでは、事務局案を提示させていただきます。

委員長につきましては、さきに当園の基本方針ビジョン2050の策定に際し、検討部会の委員長を務められた吉中委員にお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○事務局（神経営管理課長） ありがとうございます。

それでは、委員長は吉中委員にお願いいたします。

続きまして、要綱第4条第3項に委員長に事故があるときにはあらかじめ委員長の指名する者がその職務を代理するという規定がありますので、吉中委員長には副委員長のご指名をお願いいたします。

○吉中委員長 どうもありがとうございます。

前任の金子先生よりうまくできないかもしれませんが、皆様のご協力を得ながら、実のある議論をしたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

早速、副委員長についてですが、北海道大学経済学研究員の准教授でいらっしゃる相原委員にお願いしたいと思っております。ただ、きょうはご欠席ですので、ご本人にご確認した上で了解いただければと思っております。

○事務局（神経営管理課長） それでは、ここからの議事の進行については吉中委員長に

お願いいたします。

3. 議 事

○吉中議長 設置要綱第5条をご参照ください。

先ほどご案内のとおり、きょうはお2人が残念ながら欠席されていますが、2分の1以上が出席されておりますので、会議は成立していることを確認いたします。

続いて、議事についてですが、予定されているのは、次第に書かれております1から4、その他です。この議事次第のとおり進めたいと思いますが、ご意見や追加の議題等はございませんか。

(「なし」と発言する者あり)

○吉中議長 それでは、この案に従って進めたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

それでは、早速、1の入園料の見直しについてです。

事務局からご説明をお願いいたします。

○事務局(小原経営係長) 資料2-1の円山動物園入園料等の見直しについてをもとにご説明させていただきます。

まず、1の見直しの必要性についてです。

円山動物園では、1992年4月の入園料改定以降、光熱水費、飼料代などの園の運営に要する経費が増加傾向にあります。今後は、大規模施設の新設による維持管理費の増大、施設の老朽化による改修費用の増加等から動物園運営管理費に占める入園料収入の割合の低下が見込まれているなど、動物園の運営を取り巻く状況が変化しております。

経費の削減、見直しについては引き続き行っているものの、消費税増税等により、経費をこれ以上削減することは困難な状況となっております。

このような状況を踏まえ、動物の福祉に配慮しながら、将来にわたり安定的な園の運営を持続していくため、以下のとおり、入園料の見直しを行う必要が生じていると考えております。

今の状況ですが、資料2-2のA4判横のホチキスどめの資料をごらんください。

1ページには、円山動物園の過去、未来の収入の状況について記載しております。

上にグラフ、下に表がありますが、赤色の太枠で囲んでいるところが推計値で、枠で囲んでいないところが実績値です。

下の表を見ていただきたいのですが、入園料は、収入全体のおよそ8割から9割を占めております。

続きまして、2ページをごらんください。

こちらと同じようなグラフと表ですが、円山動物園の運営経費を年度別で示しております。先ほどの資料と同じように、太枠で囲んでいるところが推計値で、囲んでいないところが実績値です。

注意していただきたいのは、表の上にあります人件費です。こちらは人件費と記載させていただいておりますが、内訳は、非常勤職員の給料、臨時職員の給料、正職員を含めた旅費が含まれているのですが、正職員の給料は含まれておりません。また、このほか、建物を建てたときの札幌市の借金、これは、毎年、市債償還費として返済していくのですが、こちら表には載っておりません。これらを含めたものが一番下の表となります。

平成30年度の実績となりますが、正職員の給料は3億3,334万4,000円で、市債償還費は2億4,251万2,000円で、トータルすると11億円超の支出がありまして、推計値は赤色の枠のとおりです。

続きまして、3ページをごらんください。

1ページ、2ページで収入と支出についてお話しいたしましたが、こちらは収支についてあらわしたものです。その年度ごとに2本の棒グラフがあります。左側の青色のものが収入で、右側のオレンジ色のものが支出でして、この差が収支差となります。表は収支となりますが、欄外に入園料があり、その下に支出における入園料の割合があります。

直近の実績値でいきますと、平成30年度は、支出が5億8,332万3,000円で、入園料は3億489万1,000円で、支出における入園料の割合は52.3%となります。

ただ、先ほどお伝えしましたように、このほか、正職員の給料、そして市債償還費がありますので、これを支出に含めると、支出全体における入園料の割合は26.1%となります。

また、今後は20%前半の割合となることが見込まれております。

ちなみに、2023年度についてです。収入を3億6,233万2,000円としておりまして、2022年度の収入に比べて1,600万円ほどふえております。なぜふえているのかと申しますと、2023年ころには類人猿館の改築に伴うお客様の増を加味しているためです。

最後に、4ページをごらんください。

こちらについては今後の見直しの数字になりますが、こちらの説明をする前に、もう一度、資料2-1にお戻りください。

最近、大型施設のオープンがありますので、幸いにも収入はふえてきているのですが、いかんせん、それに伴って支出もかさんできておりますし、将来にわたって動物福祉に配慮しなければならないということを考えると、このタイミングで見直しを行わなければいけないということが背景となります。

その上でどういった見直しをするのが資料2-1の見直し案です。

事務局としては四つを考えております。

まず、1点目は、入園料等の見直しです。

大人の入園料について、現在は600円ですが、今後は800円に、また、年間パスポートですが、現在は1,000円ですが、今後は2,000円にさせていただきたいと考

えております。

2点目は、有料プログラムの設定です。

今、動物園では無料のガイドのプログラムがありますが、お客様の中には、お金を払ってもいいので、もっと高度なプログラムを提供していただきたい等のご意見をいただいております。そこで、無料のプログラムは今後も継続するのですが、そういったニーズにお応えするため、3,000円以内の有料プログラムを設定したいと考えております。

3点目は、高校生の減免制度の新設です。

現在、高校生には大人の料金をいただいておりますが、ことしの春、ビジョン2050の中でも環境教育には力を入れていきますという話をさせていただいておりますが、小学生、中学生、幼稚園児については無料とさせていただいておりますが、高校生についても、高い知見のもと、環境教育を受けていただきたいという思いを込め、半額減免にさせていただきたいと考えております。

なお、今回、大人料金を600円から800円にかえさせていただきたいと考えておりまして、その半額の400円を高校生にご負担いただきたいということです。

4点目は、高齢者の減免制度の見直しです。

円山動物園では、昭和47年から、札幌市の要請に基づき、高齢者の労をねぎらうという趣旨から、市内にお住いの65歳以上の方は全額減免とさせていただきました。ところが、当時は5%前後だった割合ですが、今は27%を超える割合となっており、今後もその割合が高くなっていくと考えますので、制度の維持が難しくなっておりますので、見直しを図りたいと考えております。

そこで、二つのプランを考えました。

まず、Aプランですが、今まで市内にお住いの65歳以上の方は全額減免だったところ、半額減免にさせていただくという方法です。次に、Bプランですが、今まで65歳以上だった年齢を引き上げ、70歳以上の方は全額減免とするものです。

このように事務局からは二つの案を提示させていただいたところですが、事務局として進めさせていただきたいのは、結論から申しますと、Bプランになります。

まず、Aプランのメリットとデメリットですが、65歳以上の方はひとしく半額ご負担いただくこととなりますので、高齢者からの負担はひとしく求めることができます。また、米印にもありますとおり、市内の公有施設では、全額減免しているところは少なくなっておりますので、そういったところからも65歳以上の方に半額をご負担いただくのはメリットになるのかなと考えております。これに対して、デメリットですが、65歳以上の方は半額減免とする、かつ、70歳や80歳の方からも半額をご負担いただくとなりますと、負担感を感じる年齢層が多くなるということです。

次に、Bプランのメリットとデメリットですが、先ほどお伝えしましたとおり、昭和47年に高齢者減免制度ができたのですが、当時の高齢者の労をねぎらう、イコール、全額減免と考えますと、年齢を引き上げることにはなりますが、維持することができるという

メリットがあります。これに対して、デメリットですが、今まで、全額減免だった65歳から69歳の方は、Bプランを適用することになりますと800円のご負担をいただくこととなりますので、限られてくるのですが、負担感は増してしまうということです。

なお、一番右側に効果額を書かせていただきましたが、現在とそれぞれのプランを適用した場合のもので、Aプランを適用した場合、今と比べて1,230万円の増収になり、Bプランを適用した場合、今と比べて1,450万円の増収になると試算しております。

4と5については、参考資料として記載させていただいたものです。

○吉中議長 少し細かい数字がいっぱい出てきましたので、理解するのが大変かもしれませんが、今のご説明でわからなかったところや再確認したいところはありませんか。

○矢野委員 私は、ことしで66歳でして、高齢者という定義に当たります。

ただ、きょうは、高齢者の代表として来ていませんので、余り深く申し上げられないのですが、まず、町内会の状況を説明します。

年齢別に区切ってはいけないと思いますが、75歳以上が18%です。町内会員は1,092名です。65歳以上が34%で1,433人、70歳以上が26%で857人、75歳以上が18%で604人、77歳の方に対し、「敬老の日」の贈呈品を渡しますが、523人で、そのうち、申告があるのが262名です。

高齢者にお話を聞きますと、要するに、年齢ではなく、環境によるということです。医療、介護、バランスのとれた栄養です。施設に入りますと、管理栄養士が食事の管理をしてくれ、栄養の面が十分にいいからです。西町のケアハウスカームヒルというものがあって、入所者100人で、満床です。この間、文化祭があり、来賓の挨拶で行ってきましたが、100歳以上が4人いらっしゃいます。そのうち、最高齢の方は104歳で、腰は曲がっているのですが、元気に歩いています。

この間、地域カフェということで、小学生、高齢者、障がい者を問わず、始めました。そこでも100歳以上の方が2人で、車椅子1名で、ウエートレス1名でやってくれています。100歳の方でも、栄養管理、医療、福祉がよければ、何ともないのです。

何を言いたいかということ、年齢で区切るのではなく、高齢者減免制度自体を廃止するということです。

このことについてホームページで調べてみたのですが、昭和32年——1957年、今から62年前の札幌市都市公園条例です。というのは、動物園や円山公園が都市公園だからですね。そういう古いものなのです。動物園についてはどうなっているかということ、入園料、個人1回600円、1年1,000円、団体30人以上、1人1回540円、中学生、小学生及び小・中学校入学前の者は無料とするという記載しかありません。

それに合わせ、動物園として要綱、要領を作成しています。要綱は、51年前の1958年ですが、そこに65歳以上の高齢者は全額無料となっております。そのほか、要領もあり、ここでも65歳以上は無料となっております。

なお、これは条例ですので、札幌市議会でしっかりとмонでいただかなければいけない

のですね。

高齢者の代表として来ているわけではありませんが、これから先を考えた場合、人口はどんどん減っていきます。そうすると、行政、国にとっては税金が取れないことになってきます。

でも、これは、高度成長の一番いいとき、人口ピラミッドのときにつくったもので、65歳以上が非常に少なく、生産年齢人口がいっぱいだったので、問題にならなかったのですが、今後、50年先を考えますと、人口はどんどん減ってきます。当然、税収も減ってきます。ですから、どこかで税金を上げるか、経費を削減するという話になってくると思うのです。

こちらは、自分なりにパソコンでプリントしたのです。見にくいかもしれませんが、上段は1955年です。三種の神器、東京タワーができたときで、人口は8,900万人です。1960年代は東京オリンピックの年で、それから名神高速道路ができた高度成長期の真っただ中ですが、こういう人口構成です。

これは4パターンに分かれておりますが、これは1965年で、ビートルズのころですが、このころはまだピラミッドの状態です。しかし、2020年はいびつになっており、高齢者と言われる65歳以上は、黄色のところですが、どっとふえます。今後、2040年になったらまだまだふえていく一方、稼いでくれる生産年齢人口がどんどん減ってきます。それから、2045年は日本の人口が1億人いますが、それから人口減少社会です。実際、1997年をピークとして、日本は人口減少社会に突入しました。2065年はつぼ型で、その先はどうなるかがわかりません。

どのみち、条例を改正するとなるとなかなか大変でしょうが、年齢で区切るのではなく、丸々削除することを提案します。

また、高校生については、62年前につくったときに入れてもらえればよかったかなと思います。ちなみに、円山球場や総合グラウンドでは高校生の割引がありますし、農試公園も割引になっています。これらは札幌市都市公園条例に基づいているのですね。ですから、高校生の割引はいいと思います。

長くなりましたけれども、もう一度申し上げますと、高齢者減免の見直しはせず、廃止することを提案いたします。

○吉中議長 見直し案の一つの高齢者減免について、減免措置そのものを廃止すべきではないかというご意見です。

資料2-1の2の見直し案の①から④まであり、今、高校生についてもお話ししていただきましたが、①から④に入る前に、まず、一步引いて、入園料の見直しをする必要があるのかどうかです。資料2-1で言いますと、1の入園料及び減免制度の見直しの必要性についての中で運営管理費に占める入園料収入の割合がこれからも低下していくが、少しでも質の高い動物福祉に配慮した園の運営をしていくために入園料を見直す必要があるというご説明でしたが、今、果たして入園料及び減免制度を見直す必要があるのかについて

ご意見をいただければと思います。

○太田委員 1点目は、収入の見込みに関してです。資料2-2の2020年度以降のところで、売店使用料、寄附金、公告収入料についての根拠が明らかにされていないので、当面、同収入があることには納得がいきません。また、入園料についてですが、入園料を改定した後も同じ収入があるという見込みが立っておりますが、変わるはずなので、同金額が入っていることはいかなるものかということです。

2点目は、実は、私は、足が悪く、幾つかの大型施設ができていますが、回れないのです。正直に申し上げて、足の悪い人たち、歩けない高齢者には優しくない状況になっています。今後、類人猿館ができるということですが、高齢者へのサービスをどうお考えになっているのかを知りたいと思います。

3点目は、入園者の属性についてです。今、入園されている方について、インバウンドの方については表記がありますが、どういった方たちが入園されているのかは大変気になりました。家族、あるいは、小さな子を持ったご家族が来られているとすると、今、議長がおっしゃったように、入園料の引き上げの問題もあるのですが、札幌市民の平均年収を細かく見てこなかったもので、有益なご意見になるかはわかりませんが、手取り25万円ぐらいで、奥さんがパートで100万円ぐらいで、手取り30万円弱ぐらいのファミリーが入園され、子どもたちに遊んでもらおうとした場合、遊興費は月に1万円いかないくらいなのです。食費は3万円ぐらいで、お父さんはお昼ご飯でコンビニのおにぎり2個しか食べられないぐらいでして、動物園までもがそうした家族から100円や200円を搾取するのかという議論があります。札幌市の生活サービスが上がっている現状で夢を見てもらう、動物の福祉を感じてもらわなければならない世代からもお金を取って、動物園に来る機会を失わせてしまうのはいかなるものかなと感じました。

最後に、4点目は、資料2-3の札幌市の人口、将来見通しについてです。高齢者に関しては、先ほど矢野委員がおっしゃったように、高齢者減免は、団塊の世代が働き盛りのころにできたものですので、いささか時代おくれであると感じていますが、一体どの世代に来てほしいのかを考えた場合、その世代が来やすい金額設定、年間パスポートの料金設定が必要になりますが、収入の見込みもあわせて議論されているのが大変疑問に感じました。

○吉中議長 何点かご質問がありましたけれども、答えられるものはありますか。

○事務局（小原経営係長） まず、1点目の収入の関係についてです。

資料2-2をごらんください。

恐らく、太田委員からは、1ページと4ページの比較でお話しされたということかと思いますが、まず、1ページの赤色のところの推計については、既に下半期に入っておりますので、その推計に基づき、これだけの入園料がいただけると考えております。

なお、令和2年度以降についてです。今回の31年度の入園料といいますのは、象舎のオープンによる効果が大きいと考えております。幸いにも、平成30年度にはホッキョク

グマ館が、31年度は象舎のオープンの効果があります。我々としては、この数字をさらに上積みできればと望んでおり、努力しているところではありますが、施設オープンによる特需がどうしてもあるところです。ですから、今年度の入園者数を最低でも維持したいということで令和2年度、3年度、4年度は同数を見込みました。ただし、令和5年度は、先ほどお伝えしましたとおり、類人猿館の改築が予定されておりますので、そちらの効果を5%見込み、このような数字とさせていただきました。

これに対して、先ほど説明はいたしませんでしたが、4ページが入園料、年間パスポート、高齢者の減免を見込んだものです。見込んだ効果については、赤色の枠の黄色がついた数字となりますが、令和2年度については、この見直しがいずれも認められた場合には、およそ7,000万円ふえると考えており、それで令和3年度と4年度は見まして、類人猿館の効果として令和4年度から5%ふえるとし、令和5年度の数字をはじき出しました。

続きまして、2点目の高齢者の割合です。

昨年度の実績がございまして、来園者数については100万9,685人でしたが、このうち、無料で入られている高齢者は3万7,757人であり、およそ4%となります。しかし、この中には66歳の方もいれば80歳の方もいて、年齢はばらばらで、把握することはできませんが、この数字をベースにするとともに、札幌市内における65歳から69歳の割合を案分して効果額をはじき出しました。

続きまして、入園者数の属性についてです。

残念ながら、家族連れが何人かなどの把握はしておりませんが、口頭になってしまいますが、内訳を申しますと、先ほどお話ししました100万9,685人のうち、有料の方は58万975人で、無料の方は残りの42万8,712人になります。内訳としては、入園券で入られた方、年間パスポートで入られた方という分けしかありませんが、入園券の方は38万1,820人で、年間パスポートの方は19万9,155人となっております。

なお、無料の方は、先ほどお話ししましたとおり、高齢者は3万7,757人で、中学生以下は33万9,481人、また、障がい者の方も減免となっており、1万5,400人、その他3万6,000人です。

ちなみに、その他とは、小学生を引率する先生や障がい者の介護者などとなります。

私どもとしましてはこのような属性しか持ち合わせておりませんが、札幌市のお給料の現実から見て料金設定としてはどうかについてです。

A3判の資料2-4をごらんください。

札幌市内で働いている方のお給料もあるのですが、動物園業界としてどのような料金設定を行っているのか、また、高齢者の料金や年間パスポートの料金設定はどのようにしているのかを参考に考えてきました。

つい先日、旭山動物園で大人の料金を1,000円に見直しするという報道があったところですが、いずれの動物園におきましても、話を聞いたところ、料金の見直しについては検討せざるを得ない状況になっている中、我々も同じでございまして、このたび600

円から800円に上げさせていただきたいと考えました。

年間パスポートについても、太枠で書かせていただいているとおり、政令市で2,000円以上と設定しているところが色つきのところで、かなり多くの動物園でそのようにしており、数多く来られる入園者の方々にとって、年間パスポート2,000円というのは、全国の動物園からすると許される範囲かなと思っています。

4点目についてはどのようなご意見だったでしょうか。

○太田委員 今のことにも反論はあるのですが、それは控えておきまして、4点目は、将来、こういった層の方に動物園に来てもらいたいのか、どういうビジョンをお持ちでしょうかというものです。

○事務局（神経営管理課長） 動物園の役割として環境教育が大きくなってきておりますので、来園者としては子どもたちに来てもらいたいという思いがあります。今、中学生以下は無料ですので、多くの方々に来ていただいておりますが、その対象を高校生に上げ、半額にしようということですが、どこにというと、年齢層の低い方と考えております。

ただ、大人が子どもたちに教える場面も出てきますし、大人みずからが環境教育なり生物多様性の保全の取り組みをやっていかないとはいけませんから、大人も対象にして、生き生きとした動物を見ていただきたいとは思っております。

ですから、ターゲットは子どもとなりますが、全ての年齢層の方に来ていただきたいという考え方です。

○太田委員 自治体がやっているのでも、そういう回答になるのかなと思っていましたが、収入、広告、寄附金に関しても同じ数字が並んでいるので、説得力に欠けますし、札幌市民に来てほしいのであれば、札幌市民が来られるような金額設定にしなければならないと思うのです。

札幌市民が来やすい金額というのはマストで考えるべきだと思うのです。この経済状況を考えてとき、動物園まで上げてしまうのかという印象を持っているということを申し上げます。

○事務局（加藤円山動物園長） 先ほど小原が申し上げた数字は、きょうお配りしているビジョン2050の実施計画の16ページにありますので、後で数字をご確認ください。

また、入場者数の見込み、入場料金の見込みについてですが、前回、平成4年に見直しをしたとき、その翌年、入場者数が2割ぐらい落ちています。また、一般的には、施設ができたり、動物の赤ちゃんが生まれたりするとふえ、その翌年に減るということがあります。そういったことから、我々としても2割ぐらいの振れ幅はあるかもしれないと考えております。でも、その中でいろいろな取り組みをしながら、今年度の入場者数をこの先も維持しようという考えのもとでこの数字を出しております。

専門家の方からすると楽観的過ぎると思われるかもしれませんが、そういう振れ幅があると認識しつつ、その中で料金設定をして、入場者数を確保する努力をしようということです。

○太田委員 1点だけ修正ですが、広告収入やグッズの売り上げも入っているので、どう
いうふうにお考えなのかをお聞きしたかったです。

○事務局（加藤円山動物園長） 残念ながら、円山動物園ではグッズは直営で販売してい
ないので、ありません。また、園内の売店からのご寄附はありますが、それぞれの考え方
ですので、我々でふやすことはできません。

また、広告についてですが、努力はしています。最近は少し状況が変わってきたのかな
と思っていますが、おとし、去年までは円山動物園は広告媒体としての魅力はそれほど
なかったのかなと思っています、ホームページで打ってもなかなか売れない状況です。

○吉中議長 札幌市民の方に来てもらいやすい料金設定はどこにすべきかという意見です
が、資料2-5の市民意識調査の抜粋がありますね。これについて説明していただいても
いいですか。

○事務局（小原経営係長） 資料2-5をごらんください。

市民意識調査というのは、毎年、年4回行っているものですが、平成29年度に、円山
動物園から、今後いずれは入園料の見直しを検討しなければならないということがありま
したので、入園料と年間パスポートの印象についてのアンケートをとらせていただいてお
りまして、その結果の抜粋です。

1ページは、入園料について、安いか高いかを聞いております。その結果、枠で囲んだ
ところですが、入園料については安いという印象を持たれた方が39.1%で、高いとい
う印象を持たれた方が12.1%です。

下のグラフですが、その中でも動物園に行ったことがある人ではどうかといいますと、
安いと考えている方が25.3%、やや安いと考えている方が19.9%で、この二つを
合わせますと、45.2%の方が安いという印象を持たれているということです。

続きまして、2ページをごらんください。

こちらは、年間パスポートについてですが、安いという印象を持たれた方は71.7%
となっております。

同じように、下のグラフの問い1をごらんいただければと思うのですが、その中で動物
園に行ったことがある方では、安いと考えている方が61.1%、やや安いと考えている
方が18.8%で、合わせまして78.9%ということで、行った方の約8割近くが年間
パスポートは安いという印象を持っているということです。

年間パスポートは平成17年に新しい商品として円山動物園で発売させていただいた経
緯があります。当時は、入園者数も非常に少ない中、何とか多くの方に来ていただきたい
という思いから破格の料金でして商品を発売いたしました。そういったことから皆様には
年間パスポートは非常に安いと感じていただけているのではないかと分析しております。

○吉中議長 これは、意識調査で印象をお聞きしているもので、実際に値上げした後にどん
なことになるかの予想はなかなか難しいと思いますが、この調査によれば、今の料金は比
較的安いと思うという回答が多かったということです。

その他、入園料の見直しがなぜ必要なのかも含め、ほかの委員からコメントはございませんか。

○伊藤委員 資料2-1の4の運営費に対する入園料の割合は非常に興味深く拝見しました。悲願の50%超えという感じですが、今回、動物園として収支バランスとして何%は超えたいという目標はあるのでしょうか。

もちろん、大ければ大いにこしたことはないというのは重々承知ですが、具体的なラインがあるのか、また、ほかの動物園の収支バランスもこんなものなのか、お聞きします。

○事務局（神経営管理課長） 入園料の割合の目標を持っているのかですが、動物園としては特に目標を持っているわけではありません。ただ、あえて動物園を維持するためにどのくらいお金をかけるかというときに、職員を含め、表では2割から3割くらいしか料金収入で賄えないということがある中、来ていただく方にどのくらい負担していただけるかということです。

今、動物園はどういう状況かという、動物の福祉をよりよくするため、どうやって環境をよくするのかについて日々お金もかかってきますし、新しい獣舎や展示室もそうですが、スペースをとり、環境をよくしないと動物を飼育していくことがなかなか難しくなってきました。将来的にそういうお金がかかっていく中、これから円山動物園を持続させるためにはどれだけお客様からお金をいただくかということです。

そこで、消費税の増税もあり、ほかでも値上げもしておりますので、この時期に料金を上げさせていただきたいということが一つです。

なお、他都市がどうなっているのかについてデータは持ち合わせておりません。

○吉中議長 ほかにございませんか。

○矢野委員 言い忘れたことがありました。

前の前の動物園長の金澤さんは西町の住民で、10年ぐらいやられていたのです。その方から聞きますと、冬期間は1日に5人しか来なかったときがあるということでした。前の前の会長のところに来て、何とかならないかということで、動物園に滑り台を造成しました。このように、冬期間はさんさんたるものでした。

それも考えますと、札幌市の円山動物園は、ほかの動物園を参考にせず、それぞれみんなが違うわけですからね。私が思うに、年間パスポートは3,000円でもいいと思います。神戸の王子動物園は3,000円です。須磨水族館は、今度、民営化されるということで、料金が3倍ぐらいになって、市民は騒いでいます。

円山動物園は、札幌市民の税金が半分、なおかつ、正職員の人件費も環境局で丸々持っています。そういう状況でやっているのです。動物園というのは、装置産業で、常に設備を変えなければいけないわけです。札幌市には冬があり、象舎を見てもらえればわかるように、冬期のための設備に物すごくお金がかかっています。あそこまでやらないと国際的にも認めてくれないからです。動物の取引など、お金で買えないような時代になっておりますので、設備をよくしていかなければやっていけないわけです。

そこで、入園料はもう2000円上げて1,000円に、そして、年間パスポートは3,000円です。決して高齢者を代表して言っているわけではありませんが、今後50年を考えると、消費税もこれからIMFが来て10%から15%に上げよと、この間言っていました。ここで上げなかったら上げる時はもうないと思いますよ。

○吉中議長 ほかにございませんか。

○後山委員 いろいろと聞かせていただきました。

値段のことで、入園料はクオリティーによって決まると思うのです。1,000円でも2,000円でも、このお芝居でこんな取るのか、高いではないかと思うものもありますし、こんなに安いのかと思うものもあります。

今の円山動物園は、象もいて、シロクマもいて、日本最高レベルです。それに30年度か上げていないわけですよ。ですから、800円は決して高いものではないと思います。また、今、1,000円でも2,000円でもという話ですが、我々市民委員はそこまで値段を決める係ではないと思うのです。ただ、値段を上げることには賛成です。

また、先ほどの優遇措置の話です。市民は値段が上がることに非常に敏感です。急に円山動物園で優遇措置をなくしますとなると、市民の方はなかなか納得しないと思います。ただ、この措置は古いというか、今の時代に合っていないという話がありますが、ここには手をつけないほうがいいのではないかという気持ちはあります。

○吉中議長 ほかにございませんか。

○有坂委員 今後、人口減少の中で施設をどんどん新しくしていかなければならないというご意見がありましたけれども、であるならば、入園料だけで運営費を半分ぐらい賄うことであってはつらいのではないかなと思います。

私も動物園が好きなので、海外を含め、見に行くと、グッズなど、別の事業によって収入を確保しながら運営しているという印象があります。円山動物園の場合、そういったことはされておらず、売店の使用料だけをいただいている状況であれば、これこそ変えていかなければならないのではないかと思います。

また、名古屋の例についてお伝えしますが、名古屋もフェアトレードタウンです。東山動植物園では、フェアトレードによって製造された動物のぬいぐるみを販売されていて、それに寄附がついていて、動物園に何割かが還元されています。そういった努力も必要ではないかと思えます。

また、入園料に関しては、確かに、高齢者の方たちからお金を取ることは今はもしかしたらいいのかなという気がします。ただ、もう少し長い目で見ると、若い世代は収入が減っている中、どれだけ収入が伸びていくのかわからない状況です。一度料金を上げてしまうと下げにくいのではないかと思うと、簡単になくす、高くするということを言ってしまうといいのかと私は思うわけです。年金がないなど、先々を考えると、そこは慎重にしていきたいと思えます。

一方で、入園料自体は多少上げてもいいのかなという気がしています。特に、年間パス

ポートは安いというアンケート結果もありますし、ほかの都市を見ても、もう少し上げても、そんなに高いとは思われないのではないのでしょうか。最初は高くなったと思われるのでしょうかけれども、受け入れられるのかなという印象を持ちました。

また、札幌市民に来ていただきたいということを何度もおっしゃっていましたが、どれだけ札幌市民が利用しているかはわからないのですよね。例えば、札幌市民割みたいなものがあり、住所を書いてあるものを持ってきてもらうと割引となるようにする、あるいは、インバウンドの話が出ていましたが、今まさに海外からたくさん人が来ていて、今日も地下鉄駅から動物園に来るまでに会った人は日本人ではない方ばかりでした。海外の人たちを取り込むことも考え、そういった人たちにお金を払っていただき、札幌市民にはなるべく割安でということを考えてもいいのではないかなと思いました。

○事務局（神経営管理課長） きょうはデータがありませんが、概算で6割ぐらいが札幌市民で、3割ぐらいが市外、道外の方で、残りの5%が外国人です。この札幌市民が6割というのは円山動物園の特性です。地下鉄駅から歩いて10分ちょっとで来られるからで、ほかと比べると圧倒的に市民の入園が多いのです。こうしたこともあり、環境教育をできる環境にあるのが円山動物園の特徴なのです。

一方で、外から来ていただいて、円山動物園にお金を落とさせていただきたいということもあります。

ですから、道外や海外から来ていただくためのいろいろな努力をしたいと思っておりますし、先ほど矢野委員からありましたとおり、冬の来園者数はぐっと減ります。でも、冬に元気な動物はたくさんいますので、いろいろな発信をして、また、冬にこれだけ展示しているのが円山動物園の特徴でもありますので、それも伝え、人を呼び込みたいと思っております。

○事務局（加藤円山動物園長） 幾つかお話をします。

動物園のそれぞれの収支バランスというのは、本当にばらばらです。動物種によって人件費も変わりますし、今話題にありましたけれども、円山動物園は夏用と冬用の二つがあるようなものなのです。こんなに屋内の観覧施設があるのは本州ではありません。でも、それで暖房代がかかります。このようなことから支出の額はそれぞれの動物園によって違っているので、単純に何割だと比較するのは、数字は出ますけれども、その比較が正しいかどうかはわかりませんし、物すごく深く分析しなければなりません。

また、お客様の割合ですが、円山動物園の市民の入園が6割から7割あることは維持していかなければならないと思っております。外国の方や観光客の方がばっとふえると、混んでいて見えないということで市民がきっと減ります。でも、それではいけないので、よその人に来ていただきたいのは上積みの部分で、市民の入園の6割ぐらいというものは維持しつつ、全体の入園者数は底上げし、インバウンドを初め、市外や道外の方に来ていただきたいということです。

○太田委員 私は動物園が大好きで、ずっと続いてほしいと思うので、たくさん発言して

しまい申し訳ありません、市民に来ていただくことを主眼に置くということは大変うれしく拝聴したのですが、類人猿館ができるからお客様がふえるというような、いわゆる箱物事業をそのままやっていっちゃるという印象があり、大変悲しかったです。

それであるならば、子どもたちのお弁当を食べる場所ですが、真ん中の木が生えているところでカラスに怯えながらお弁当を食べている園児たちをいつも見ます。そういうことから、子どもたちが安心してご飯を食べられるような場所を先につくっていただきたいですし、私たちのような足が余りよくない人や色んな市民が、楽しめるよう、座るところや暖かい場所をつくっていただくなどにお金を使っていただきたいと思います。

市民目線で、新しいものをつくってお客様を呼ぶ、減ってきたら新しいものをつくるという今までやってきたハコモノ事業ではなく、市民目線に立ったお金の使い方をしていただかないと、持続可能な動物園の議論にはいかないのではないかと思います。

収入がないから支出が多くなり、人件費がふえるから料金を上げますという言いわけは、動物福祉や教育の場でもある動物園はそうであってはいけないと思っているので、ぜひ市民目線に立った動物園のあり方を考えていただけるとありがたいと思います。

○事務局（加藤円山動物園長） 類人猿館はお客様をふやすために改築するのではなく、動物の環境をよくするためです。その結果、見ていただくところが変わることによってお客様がふえるだろう、ふえるといいなということです。

また、今いただいたようなお客様のおもてなしについても我々はいろいろと努力しようと思っておりますが、それが結果としてなかなか出ていないのかもしれませんが、これは忘れずにやっていくつもりです。

○吉中議長 ほかにいかがでしょうか。

○宮本委員 今、有坂委員がおっしゃっていたグッズのことと内部の居心地を上げることには大賛成です。

話はずれますが、日陰のないという関係については、何度か円山動物園と植樹のお話が出ていますが、園内の植樹計画も見直すべきだと思っております。海外の動物園では土がほとんど見えません。それぐらい緑がきちんと入っているわけで、それは今後ご提案したいと思っておりました。

一つ確認ですが、私なんかは、円山動物園の超ヘビーユーザーで、年間で何回来ているかもわかりません。また、もうすぐ高齢者です。団塊の世代は年金も給料も安いわけですが、そういうヘビーユーザーが来ることを考えますと、年間パスポートのほうを安くしてほしいと思うわけです。

ヘビーユーザーは一回一回買いません。そちらで札幌市民の高齢者のヘビーユーザーというか、例えば、近所には散歩に来る方もいると思いますので、そういう方の負担を減らしていただくほうがいいのかなと思います。ですから、高齢者の減免は要らず、年間パスポートというか、札幌市民のヘビーユーザーには何らかの減免措置をとっていただいたほうがいいのかなと思います。

また、それで収入が上がるのであれば、札幌市民に恩恵をとというのはもちろんありがたいのですが、できれば全国あるいは全道の専門教育を受けている大学生の減免を足してほしいと思います。例えば、酪農、畜大、北大獣医学部などの学生に対し、あるいは、全国でそういう勉強をされている方に円山に来ていただくようなサービスがあるといいと思っております。

これは今すぐということではないと思いますが、いつもそう思っております。

○吉中議長 まだ発言されていない土田委員、何かございますか。

○土田委員 政令市の入場料と比較して、観光としては衝撃的に安いと思います。

まず、入園料が高くなるのはしょうがないかなと思いますが、なぜ、こんなに長い時間、改定をしなかったのかです。先ほどはクオリティーとセットだということがありましたが、設備投資とクオリティーを上げることと料金を見直すことが経営上でリンクしていないのだなと思って聞いていました。

普通の民間施設ですと、新しく投資をして魅力アップをするので、それにも増して料金も値上げします。これは、マーケティング上、非常に難しいですが、値上げしながら、来場者数もとるというプロセスを何とかやろうとしているのですね。でも、動物園は、環境教育という観点があるので、一概にそういうことは言えないだろうと思いますが、値上げの方向性についてはいいのかなと思いました。

また、気づいたのは、年間パスポートをいきなり倍にするのは本当に大丈夫なのかということです。私も羊ヶ丘展望台という観光施設を運営している側なので、料金については何パターンも組み合わせしてシミュレーションします。それに比べ、料金体系が民間施設の発想からしますと、シンプルというか、あっさりしていますので、さまざまなニーズに対応しにくいのではないかなと思います。時間帯や季節によって料金が変わることは観光の世界ではよくあるのですが、こういう施設に果たしてそれがいいかどうかはわかりません。しかし、段階的に上げるということはあるかもしれません。

それに、そうしたことを突き詰めていくと、料金を見直すことに何かの基準はないかなと思ったのです。行き詰ったので、そろそろではなく、何年か置きに計画があってというような見直す基準はないのでしょうか。

また、昨年も別の委員の方がおっしゃっていたのですが、市民の方と観光客の料金は明確に区分けしていいのではないかと、そこに圧倒的な差があつていいのではないかと思います。市民の財産としての動物園であれば、市民の料金は上げず、そうではない方にはもっと高くということはあるかもしれません。

そして、有料プログラムが3,000円で頭打ちというのはなぜなのだろうかと思いました。観光の世界だと、ビジネスインセンティブなど、もっと高額を払ってでも唯一無二の体験をしたいというお客様は明らかにいます。これはオーダーメイド的なサービスなのでしょうけれども、条例などで上限があるのかは聞きたいなと思います。

○吉中議長 時間の関係上、ずっと議論を続けることはできないのですが、最後におし

やられた有料プログラム3,000円以内のキャップをはめることについては何かお考えがあるのでしょうか。

○事務局（小原経営係長） 有料プログラムは条例で制定しなければならないものになりまして、札幌市の条例を扱うセクションと話をしましたところ、使用料の場合は明確な積算に基づいて金額を設定しなければならないということがあります。基本的に、このメニューはこの金額でとはっきりしなければならないのですが、円山動物園の場合、メニューの内容によって臨機応変に金額を設定しなければならないわけですが、幅がある金額を設定することは妥当ではないと考えられ、過去の実績から金額を積算しましたところ、我々でやっているメニューをバージョンアップさせたとしても、実績からすると3,000円が妥当と考え、この金額とさせていただきますが、今後、有料プログラムをやっていく中でさらに金額が必要であれば改めて検討させていただきたいと思っております。

○吉中議長 外部の民間の方が動物園を舞台に有料プログラムをされるときもこれに縛られますか。

○事務局（小原経営係長） きょうの新聞報道で出ていましたが、さっぽろ女性活動協会の主催の円山動物園にお泊りするツアーがありますが、こちらは1万1,000円です。これは、円山動物園が主催しているメニューではありませんので、そういったものは条例で設定したとしても対象外になります。

○吉中議長 いろいろと貴重なご意見をいただきました。

それぞれ違うご意見をお持ちだということが明らかになりましたが、これからの動物園での見直し作業のスケジュールについてお聞かせいただけますか。

○事務局（神経営管理課長） これからのスケジュールについてですが、来年に入りましたら、第1回定例会に条例の改正として上がりまして、そこでやりとりして決定することになります。

○吉中議長 そのプロセスの中で市民から意見を伺うチャンスはあるのでしょうか。

○事務局（神経営管理課長） きょう、こういった形で市民動物園会議に出させていただいておりますので、ここでのご意見も参考に最終的にはどういったものを出していくかになるかと思えますし、12月の中旬に札幌市議会の総務委員会があり、そこで料金の見直しについてやりとりする予定で、各会派の議員からも意見をいただき、それも踏まえ、来年に議会にかけていくことになるかと思えます。

○事務局（小原経営係長） 先ほど説明が不足しておりましたが、今回、事務局からは見直し案として四つを挙げさせていただいております。入園料と年間パスポート、有料プログラムについては条例に基づき徴収するものですので、先ほどもご説明させていただきましたが、議会の承認を得て決まります。しかし、③の高校生の減免、④の高齢者減免の見直しについては要綱に基づいて行うものになりますので、動物園の判断のもとで決めます。

いずれも見直しのタイミングとしては来年春からを希望させていただいております。

○事務局（小菅参与） 今まで動物園の入園料についてご議論をいただきましたが、日本

の動物園の入園料は極めて安いというのは世界の水準から見てご存じのとおりです。先ほど有坂委員が世界を見て回っているとおっしゃられましたが、こんなに安い入園料のところはありません。

なぜそうなっているかという、日本動物園水族館協会に加盟している動物園、過去には100園ぐらいで、今は91園となっておりますが、その約8割が自治体立だからです。自治体立の動物園ですから、収支を余り表向きに考えていないような設定の仕方がされたのです。でも、現実の予算査定ときには収支は必ず机に乗ります。しかし、対外的には、市役所の事業として、都や県の事業でやっていますから、一種の公共料金のような印象を持って運営されているのが日本の動物園です。そして、その中で非常に大きな影響を持っているのが上野動物園の入園料です。

上野動物園でも大人幾らという料金を設定していますが、そうすると、地方の動物園は、上野動物園が600円のときに700円や800円という設定をしていいのかというわけのわからない議論がどこでもされているのです。それは、もちろん、市民の皆さんのところには届かない話です。でも、とにかく、上野を超えてはいけないという不文律みたいなものがありました。

でも、あれは東京都がやっているのです。年間でどれだけのお金を三つの動物園につき込んでいるかを調べたらわかります。その東京都がやっているところの料金設定を参考に地方では料金設定をさせられているのが現状です。

しかし、東京の財政と地方自治体の財政を比べてみてください。あそこは自分のところだけで生きていける自治体ですよ。それ以外のところは地方交付税をもらっています。そんな経営状態の中で動物園の料金を考えなければならないわけですが、我々のような動物園をやっている人間からすると、そんなばかな話はないと思っているのです。

実は、今回、年間パスポートも議論になっていますが、こんなに安くした責任は旭川にあります。私が提案したとき、高校生以上の一般の入園者の入園料は420円でした。でも、その時代に30周年を迎えたので、30周年記念として、市民の皆さんと一緒に祝いましょう、だから動物園パスポートをつくりましょうとなったのです。ただし、これは年間ではありませんでした。その年度内のパスポートです。

私は、そのとき、どのくらいがいいのかを本当に真剣に考えました。市民の皆さんがどれぐらい通ってくれるのかなどのいろいろな情報をとりました。それで、これならいけるかなと思ったのは、3倍の1,200円でした。これで提案したのですが、とんでもない、そんなばかなことはやめろと財政から言われました。君たちが一生懸命努力して、お客さんにきてもらっているのだから、それを料金に反映するのは当たり前ではないかと反対されたのです。でも、市長査定ときに、市長から、園長、高過ぎる、お祝いなのだろう、それだったら市民にもっと喜ばれるよう、せいぜい600円だなどと言われました。

一般の入園料が420円のところ、600円でワンシーズンです。これはつらいなと思いましたが、市長の政策ですから、わかりましたと言いました。でも、実際に予算が決定

したときには何と500円でした。信じられますか。1回の入園料が420円で、シーズンを通したパスポートが500円ですよ。なおかつ、私が財政から言われたことは、一円でも赤字になったらおまえの責任だと。内と外ではこんなに違うのです。

結果的には私の首がつながりましたからよかったですでしょう。でも、このパスポート料金の設定にはそういうことがあったのです。本当に申しわけありませんが、円山動物園ではその影響を受けてこの金額です。

上野動物園は、たしか、3倍ぐらいの料金にしたはずですが、でも、入園料の3倍が当たり前です。私たちも何度も料金改定を検討したのですが、それで黒字になってきてしまったので、立ち消えです。というのは、海外の人が押し寄せてきて、黒字になったのです。私は、そのときでも、料金の値上げを提案しました。600円を800円にしてくれと言いましたら、議会でめちゃくちゃたたかれました。今、黒字なのだから、安くして当たり前だろう、なぜ値上げするのだと言われました。でも、この値上げ分は、将来、旭山動物園が施設を建てるときの頭金にするのだ、基金をつくり、ためて、多くの人からいただいたプラス200円で将来の動物園経営を考えていくのかだと言ひ、議会で通してもらいました。でも、そのとき、新聞社が何と書いたかです。旭山動物園、ついに上野動物園を抜いて、入園料で日本一へと書かれました。

このように、入園料は内向きの議論と外向きの議論は全然違うのです。今回、皆さんがお話しされていることを聞いていてもそうでした。これは議会にかけられるわけですが、恐らく、さまざまなことが言われます。そのとき、市民と市外の入園料を分けろということもあるでしょう。

私が800円にということ提案したとき、同じことを言われました。それは嫌だ、市民こそ動物園を支えるべきだと私は言ったのですが、否定されまして、市民だけは580円のままで、市外の方は800円となりました。でも、これは、私の意向ではなく、議会の意向です。ちなみに、その後、ご存じのとおり来年からは1,000円となります。

また、パスポートについてはもっと上げたくて、本当を言えば2,000円にしたいのです。これがなぜできなかったかという、旭川市にそういう決まりがあるそうなのです。でも、これは公共料金ではないのですよ。でも、市の設定している料金についてはそういう規定に準じなさいということのようです。このように、このことについてはいろいろな地方自治体で常に議論されているのです。でも、動物福祉、または、市民へのサービスが十分なのかどうかとなったときには、入園料でどれだけ賄ってもらっているのか、何%が回収できているのかが市役所では議論になるのです。

これは私以外の人にはなかなか言えません。私はアドバイザーなので、自分の経験から言えます。

入園料を上げていただくのは、議論の場でも、ここまで頑張っていますよということを動物園が市役所に対して言える根拠になってきますので、そういうことも踏まえて、皆さんにはご審議願いたいと考えております。

○吉中議長 一般の市民の方には市役所の中の議論は全く見えませんので、市民の方にどうという説明をして、どういうふうにして理解を得ていくかは、別途、しっかり考えなければいけないことですね。

大変貴重な話をありがとうございます。

話を戻しますが、今後、①と②については議会にかけられ、条例の変更が議論されるということでした。そして、それと並行し、③と④については、議会の意向も踏まえつつだとは思いますが、動物園で要領としてこれからさらに検討されることだということです。

お聞きしてきた中でというか、皆さんも感じられたと思いますが、それぞれに対していろいろな意見が出ていまして、ここで、だから④はAプランにしよう、Bプランにしようとするのはできないかと思います。さらに、見直しの必要性についても、特に年間パスポートは安過ぎるなど、いろいろなご意見が出ましたが、だから見直しをしようというところまでは皆さん合意されてはいないと思うのです。

札幌市の円山動物園ならではの今後のあり方をどうするのかをもう少しわかりやすく整理し、だから、こういう人たちをもう少し呼び込むのだ、あるいは、これから税金でやるべき部分と入園料でやる部分をどう整理していくのかなど、そういうことを丁寧に、もうされているとは思いますが、外向けにもわかりやすく伝える工夫をしていただき、議会での議論の際も、できるだけ公開にして、いろいろな市民の方から意見を伺いながら検討していただくことをお願いするというのが私のできることかなと思います。

なお、この次の議題として円山動物園ビジョン2050の実施計画について予定されております。

最初のご挨拶でもありましたが、基本構想、ビジョン2050をこれから具体的にどういう進め方をしていくのかというものがつくられようとしているわけですが、今後の具体的な収支計画や整備方針なども書かれておりますので、そういうものも入園料の見直しの際の補強材料といいますか、説明材料といいますか、理屈づけに使っていけばいいのではないかと、むしろ、実施計画に基づき、だから入園料はこうあるべきだという整理も必要だと思います。

そういうこともありますので、次の議題に移ってしまいますが、ビジョン2050の実施計画の策定のプロセスについて、簡単に事務局からご説明いただければと思います。

○事務局（神経営管理課長） 先ほど吉中議長からお話がありましたが、これからどうしていくのかです。

前期に、ビジョン2050ということで、円山動物園の100周年をどうしていくのかというものがありました。また、料金についても持続的な経営のためにはどうしていくのかという大きな筋道が書かれてあります。今回の実施計画については、そのうちの5年間、今年度からの5年間をどうしていくのかというもので、厚い冊子の資料3-1にぎゅっと入っております。

きょうはお時間がありませんので、A3判の2枚物の概要版でポイントを絞っての説明

をさせていただきます。

まず、実施計画のスケジュールになります。案ということで、現在、札幌市の関係局で議論を進めているところです。例えば、市全体の計画を所管しているまちづくり政策局やお金の関係を所管している財政局などと調整しておりますが、来年1月に市長まで実施計画が上がり、その後、年明けに札幌市議会でも実施計画について報告します。

その後、2月には、実施計画の案を市民の皆様に見ていただくパブリックコメントをさせていただきます、3月の策定を目指します。

きょうは、先ほどのA3判の資料で簡単な内容をご説明させていただきますが、この中身については、この後、見ていただき、意見については、来年2月に市民の方々に行うパブリックコメントのころまでに、メールを初め、私たちにご意見をいただければ、可能なものを実施計画に盛り込みたいと考えております。

それでは、実施計画の概要についてご説明させていただきます。

左上になりますが、ビジョン2050実施計画の策定に当たってです。

円山動物園は、2007年3月に基本構想を策定し、これに基づいて基本計画を定め、事業を行ってきました。そんな中、先ほども話がありましたが、2015年にマレーグマの死亡事案を起こし、それによって動物管理センターから改善勧告を受けることになりました。その後、改善計画に沿い、獣医師機能の強化といいますか、人をふやしたり、動物専門医という職を設けました。また、開園時間や休園日の見直しも進めました。

一方、国内外の動物園を取り巻く環境、例えば、動物福祉が非常に大きなウエートを占めますが、国内外の動物園で重要視されており、環境保全や環境教育など、動物園の役割も多くなっております。そうした変化に対応するため、基本構想にかわる新たな基本方針としてビジョン2050を策定しました。

今回策定します実施計画は、ビジョン2050の基本理念を着実に実現するため、動物福祉の向上を根幹に、保全、教育、調査研究、クリエイションの取り組みを重点的に推し進めるためのもので、具体的な取り組みについても示しながら、持続可能な動物園運営をしていきたいと考えております。

次に、これまでの取り組みと今後の展開ですが、動物飼育については、これまでの身体的な特徴を見せる分類学的な展示から、生息地ごとの動物の地理学展示、具体的にはアジアゾーンやアフリカゾーンなどの展示方法に移行してまいりました。

また、動物の連続死亡事案が発生したため、改めて動物福祉の重要性を認識し、そのための取り組みも進めてまいりました。

今後の動物飼育の展開ですが、飼育、展示する動物種の考え方、これをコレクションプランと動物業界では言っておりますが、それぞれの動物種について、推進種、継続種、断念種という分けをしまして、これに基づいて動物飼育を推進してまいります。

右のベースの上になりますが、施設整備の関係です。

これまでの取り組みですが、ここに書かれているとおり、いろいろな施設ができており

ます。最近では、2017年にホッキョクグマ館ができたり、象舎がことし3月にオープンしました。今後の施設整備の展開ですが、限られた予算の中で、法的条件を初め、動物や来園者の安全確保、飼育上の使いやすさなどの特殊性に考慮しながら動物舎の改修を進めていく必要がありますし、当然、動物福祉の充実に配慮した検討もこれからの施設整備の展開の中では必要になってまいります。

次に、来園者数の推移です。

先ほども話が若干ありましたが、2018年は、ホッキョクグマ館のオープンの影響もあり、39年ぶりに来園者が100万人を超えました。2019年以降もこの数字を何とか維持していきたいと思っておりますが、2023年には類人猿館が一部改修されるため、来園者が若干ふえるであろうと見込んでおります。

また、収支状況については、下の表になりますが、2009年、収入は3億4,000万円程度ありましたが、2019年は、黒色の枠の左側になりますが、3億3,000万円ちょっととなっております。一方、支出は、2009年の9億円から2019年には12億円ということで、3億円程度が増加しております。先ほど説明しましたが、これは光熱費や維持管理経費がふえているためとなります。

次のページをごらんください。

では、この5年間、具体的に何をやっていくのか、どんな事業をしていくかです。

実施計画の本書を見ていただくと、かなりの取り組みが書かれておりますが、特に主なものをここに載せております。その中でもきょうご紹介させていただきますのは、左の保全のところのホッキョクグマ保全推進事業になります。

今、ホッキョクグマ3頭はおりますが、デナリとララは高齢個体となっておりますので、今後、円山動物園でホッキョクグマの飼育を継続するためには海外からの個体の導入が必要です。

そこで、生息地における調査研究・保全活動に携わる機関との連携をいたします。具体的には、カナダのマニトバ州、マニトバ大学と協力、研究をしながら、カナダでの保全や国際的な枠組みの中で飼育下個体群の保全に貢献したいと考えており、その上で、何とかカナダからのホッキョクグマの導入を目指したいと考えております。

具体的な金額ですが、2020年度から3年間で3,000万円、各年1,000万円の予算を見込んでおります。

次に、類人猿館改修事業です。外と中の展示場がありますが、屋内の展示場は、耐震基準が満たされておりませんし、老朽化も進んでおります。動物の福祉、オランウータンの福祉を確保するためにも改築が必要と考えており、2022年度ころの完成の目指して進めてまいります。

次に、2の動物福祉のところの上から3番目の動物園条例の制定についてです。こちらは市長公約にもなっておりますが、市民動物園会議のもとに検討部会を10月に立ち上げておりまして、ここでどんな条例にしたらいいのかの検討を進めております。

次に、基本理念を実現するための基盤を支える事業と取り組みです。

先ほどもご議論をいただきましたが、適正な入園料収入のあり方の検討ということで、実施計画の中にも盛り込ませていただいております。

簡単でしたが、実施計画の概要については以上のとおりです。

○吉中議長 実施計画の本文もぜひごらんになって、帰ってからでもご意見をいただければと思いますが、先ほどの議論と関係するのは20ページ、21ページで、収支の見込みとして、収入をどう確保していくのか、支出をどう削減していくのかが書かれておりますが、皆様からご意見を出していただければありがたいと思います。

また、この実施計画の策定に当たっても、もちろん、これからの収支計画が含まれてくるとお思いますので、ぜひ、きょう出されたいろいろな意見を参考にさせていただいてというか、尊重していただき、丁寧に整理、説明する努力を続けていただければありがたいと思います。

私が皆さんからいただいた意見を網羅的にまとめることは能力的にできませんが、まず、世界的に見ると今の料金は安過ぎるというのは皆さんもお感じになっていることだと思います。一方で、今後、円山動物園にどういう人に来てもらいたいのか、どういう年齢層、どういうプロフィールの人に来てもらいたいかをしっかりと見きわめた上で、その人たちを呼び込むにはどういう料金体系がいいのかという整理も要るのかなと思います。

さらに、環境教育や保全の中で出てきたご意見としては、高校生、あるいは、その分野を勉強されている大学生の減免措置はどうあるべきかというご意見もありました。

そして、現状の利用環境の改善ですね。皆さんが憩っているような場所をもう少し快適にする工夫が最初に必要ではないかというご意見がありましたし、高齢者の減免措置については、賛成反対等、いろいろなご意見がございました。

ここで大事なのは、高齢者を含め、弱者、あるいは、障がいを持っている方など、誰でも楽しめる施設整備、あるいは、ソフトの整備をどうするのか、そのためにどのくらいお金がかかるのか、それはセットで考えていかなければならないということです。

上野動物園がベースになっているという小菅参与からのお話がありましたけれども、ビジョン2050をつくるときも、円山動物園は日本一、あるいは、世界でもトップの動物園を目指すのだという意識があり、動物園側もそういうお考えでまとめていただきましたので、そういう意識をこれからもぜひ持っていただき、円山あるいは札幌市ならでの状況に応じてどうあるべきかをさらに詰めていただければありがたいと思います。

本当であれば、あと3時間でも4時間でもみっちり議論したいのですが、そういうわけにもいきません。そこで、まずはこれを見ていただいて、言い足りなかったことや実施計画の中身について、できるだけ早く事務局に出していただき、きょう出た意見も取り入れ、実施計画の検討に生かしていただければありがたいということで終わりにさせていただきますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○吉中議長 それでは、時間が超過していますが、残りの議題についてです。

一つは神課長からさらっとご紹介がありました、動物園条例の制定についてです。実は動物園会議の下に部会を設けて進められておりますので、そのことについてご紹介していただきたいと思っております。

○事務局（森山調整担当係長） A 3判横の資料4-1、そして、**検討部会委員名簿**の資料4-2となります。

検討を始めるに至った経緯にも触れまして説明したいと思います。

3月にまとめましたビジョン2050を検討する中で、市民の財産である動物たちの福祉を守っていくため、ひいては、その動物の観覧を通して市民の福祉を増進するため、円山動物園の役割や動物飼育に関して規定する条例が必要なのではないかという思いに至りまして、条例制定の意義や必要性を検討していこうとなり、それをビジョンで示して**おりました**。

そうした中、先ほども話がありましたが、ことしの春の統一地方選挙の中で条例の制定を公約として挙げていました秋元市長が当選され、具体的な検討を始めることになりました。そして、先ほどのお話のとおり、市民動物園会議の専門部会として、動物園条例検討部会を設け、つい先月、10月31日に第1回目の会議を開き、検討が始まったところで

ここでは、**動物園**内部で議論をし、条例としてはこういうものがいいというものを動物園側で示し**審議いただく進め方**ではなく、条例の考え方も含め、専門家の方々とともに検討していこうという状況ですが、今把握できる条例の必要性や条例のイメージはまとめておりますので、ご紹介いたします。

まず、1の条例の必要性についてです。

(1)の現行法制における動物園の規定状況ですが、国内の法令では、動物園の定義、動物福祉について、明確に規定したものがありません。**札幌市**においても動物園の定義もありませんし、動物福祉、動物福祉に関する基本理念や基本原則を規定したものがありません。次に、(2)の現代における動物園の社会的役割ですが、地球規模の保全が求められているということがあります。(3)ですが、基本方針ビジョン2050の取り組みを法的に担保し、着実に進めていく必要性を挙げました。さらに、(4)として、条例制定により、市民の利益の増進につながるという考えを持って、条例はどんな内容にすべきなのかなどの検討を始めたところでは

次に、2の条例内容のイメージについてです。

これは円山動物園についてのみ規定するものではなく、条例を制定する機会に、札幌市が考える動物園とはどんなものかを定めまして、あわせて、円山動物園のあり方を規定する条例としたいと考えております。ですから、札幌市の中の地域全体に係る条例とすることを前提としています。

名称は、仮に札幌市動物園条例と置きました。

構成は、前文で条例制定に至る経緯などを書き、第1章は総則ということで、条例の目的や定義、職員や行政の役割などを明確にします。第2章は動物園・水族館の責務ということで、動物園などの取組、行うべきことを明確に規定します。そして、第3章に円山動物園の行っていくことを明確に書き、これを根拠に、今後、円山動物園を運営していくということをイメージしております。

1回目の会議を終え、いろいろな意見をいただいております。例えば、第1章の総則には動物園の原理原則を入れたほうがよい、実効性を担保するためには罰則が必要なのではないかという意見もございました。ただ、前提としては、既に動物を取扱う事業者がおり、国内で動物園の運営を規制するような法律がない中、札幌市の条例で直接規制するような規定を設けるのは難しいのではないかと考えておりますが、今、そうしたことも委員に伺いながら議論しているところです。この辺の方向性は見えておりませんが、そうしたことを今後議論していきます。

3の検討の進め方についてです。

条例検討部会で1年ほど検討し、その結果を市民動物園会議で報告させていただきたいと思っております。途中の段階で中間報告もさせていただきながら進めていきます。1年後に報告が終わりましたら、市民動物園会議から札幌市に提言書として提出することを考えています。こうした取り組みの中で市民の皆様幅広く情報を提供するとともに、シンポジウムなどを開催するほか、ワークショップやアンケートなどを通じ、意見をいただきながら検討を進めていきたいと考えております。その後、条例案を札幌市で考え、議会に提出いたします。

4の検討スケジュールについてです。

10月に第1回検討部会が開催され、来年の2020年10月ごろまで検討を行います。そして、11月ごろには札幌市に提言書を提出していただき、そこから約半年で条例案について庁内で中身を審議するとともに、議会にも説明し、2月ごろにパブリックコメントを行い、市民の皆様にもご意見を賜って、令和3年第2回定例会で議案として提出することを目指しております。

○吉中議長 今のご説明に対して、何かご質問等はございませんか。

小菅参与は検討部会の委員を務めているようですが、補足して教えていただけることはございませんか。

○事務局（小菅参与） 条例制定に関し、検討委員会をつくり、札幌市で動物園条例をつくっていく方向になりましたが、とにかく、国に動物園を規定する法律がありません。先ほど言いましたが、8割は自治体立の動物園ですので、その自治体で動物園とはこういうものだと規定し、それが表に出ていればそういう議論になるわけでしょうけれども、残念ながらそうはなっておりません。

旭川市には旭山動物園条例があるのですが、これは設置条例で、目的に市民の憩いの場と書かれているだけで、本来、動物園で何をすべきかに触れている地方自治体の動物園条

例は、私の知っている限り、ありません。

そんな中で、将来、日本の動物園がどういう動物園になっていくのかですが、砂上の楼閣という言葉がまさに動物園だと思うのです。根っこが何もない中、全国に91もの動物園があり、それぞれ土台が違っているというのが動物園の世界なのです。

本当は国が規定すべきなのでしょうが、国ではそういう意思はないということです。そんな中、札幌市の秋元秋本市長が判断してくれたのでしようけれども、動物園をしっかりとやっていくには条例が必要なのだということになりました。その背景には不幸なことがあります、それを未然に防ぐことができなかったという市長なりの思いがあったのかもしれませんが、円山動物園は未来に向かってしっかりと土台をつくっていかねばならないのだと判断され、この検討部会ができたのだらうと思います。

なお、検討部会のメンバーについてです。

まず、日本の法律には人間以外を規定するものはないのです。生物多様性条例に関して、こうやれば人が幸せになると最後に書いてあって、動物のための法律ではありません。条例を作るにはやはり法律の専門家が必要です。日本で唯一の動物に関する法律家である神奈川大学の諸坂先生が入ってくれています。先生は、アマミノクロウサギを保全するため、野猫をどう規定するかという条例をつくったり、北海道では、羽幌町で天売島のウミガラスを守るため、ネコ飼育条例をつくっておられます。

また、獣医師で、日本の動物園界で先進的に進めてくださっています福井先生という岩手大の先生がおりますし、動物飼育において、類人猿をずっとやってきて、世界的な類人猿の飼育の研究されている黒鳥さんという方も入っています。もちろん市民の代表の方も参加してくれています。

このように、多方面から条例はどうあるべきなのかというベースの議論からスタートしています。

予定ではすっとうまく行くようになっておりますが、第1回目が終わった時点ではいつまで続くのやらと思うくらい活発な議論が行われておりますので、ぜひ注目していただければと思います。もちろん、最終的には市民動物園会議に持ち込まれ、ここでも審議となりますが、その審議過程を意識してごらんいただければ結構おもしろいと思いますので、よろしく願いいたします。

○吉中議長 どうもありがとうございます。

何かご質問はございませんか。

○矢野委員 先ほどの値上げの件で、市民動物園会議の総意としては承認するというところを取りまとめて発言してはいかがでしょうか。

○吉中議長 先ほど申し上げましたが、いろいろな意見が出ておりますので、この案で値上げすべきですというのは、きょうの限られた時間ではコンセンサスが得られていないのではないかと思います。ですから、いろいろと出た意見を事務局で受けとめていただき、さらに検討していただきたいというのが我々の出せる結論ではないかと思うのですが、い

かがでしょうか。

○矢野委員 動物園側のスケジュールはタイトなものがあるのですか。

私は賛成ですよ。ただ、値上げとなると、町内会費のときもみんなが反対するのです。大変なことは大変ですよ。前例踏襲や横並びではなく円山動物園として独自のものを出して頂きたい。

○事務局（神経営管理課長） この場合は、決定機関ではなく、あくまで協議をいただき、意見を受けとめる場だと考えております。ですから、ここでのご意見も参考に、来月の総務委員会でやりとりする中で最終的にどうするかということになってくるかと思えます。

○吉中議長 条例についてはよろしいでしょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○吉中議長 部会から随時報告を何らかの形でいただければとありがたく思います。

最後に、転入・転出動物の状況について簡単にご説明をお願いいたします。

○事務局（山本飼育展示課長） 資料5をごらんください。

これまで、転入・転出動物、死亡動物、繁殖動物について、主なものを記載していましたが、今回からは登園で管理する動物台帳に従って記載させていただいております。

まず、転入・転出動物について、主なものをご説明させていただきます。

マレーグマのハッピーは、5月23日に愛知県の豊橋総合動植物公園に転出しております。ハッピーは、平成21年に高知県立のいち動物公園が来園し、その後、上野動物園からお借りした雄のウメキチと繁殖を目指していたのですが、ウメキチに疾病発症があり、繁殖がかなわなくなったため、転出することになりました。

なお、豊橋総合動植物公園では、ハッピーの繁殖相手となる雄の導入は今のところはないようですが、まだ13歳と十分に繁殖力がある年齢ですので、いつか子孫を残してくれることを期待しております。

次に、シンリンオオカミのショウです。11月6日、鹿児島市の平川動物公園に転出しております。ショウは、父親のジェイと離れ、ここしばらくはひとり暮らしをしてきたところですが、平川動物公園から5歳になる雌のミナとペアリングを目指したいという提案をいただいたことから異動することとなりました。マレーグマのハッピーと同様に、早く新天地になれ、たくさんの子孫を残してくれることを期待しております。

次に、死亡動物についてです。

8月30日、インドセタカガメが2点死亡しております。停電による設備の誤作動などによって展示プールの水温が上昇し過ぎてしまったことによるものです。インドセタカガメは絶滅が危惧されているアジアの希少な亀でして、当園でも繁殖に取り組んできたところですが、大変残念な結果となってしまいました。今後、このような事案を発生させないよう、必要な対策をとってまいります。

次に、ダチョウのリュヴですが、9月下旬から食欲の低下などが見られ、投薬や点滴などの処置を行ってきましたが、残念ながら、10月12日、9歳で死亡しております。胃

の中に大量の砂が貯留していたため、通過障がいを起こしていたものと思いますが、なぜそのような状態となったかについては不明です。

次に、繁殖動物についてです。

前回の会議では、順調に羽化すれば円山動物園としては初と報告しておりましたカンムリシロムクについてですが、2回にわたり合計5羽の羽化がありました。そのうち、4羽は残念ながら死亡してしまいましたが、残る1羽はここまで順調に育てております。円山動物園では2012年からカンムリシロムクを飼育しておりますけれども、約7年もの歳月をかけ、ようやく初繁殖となりました。カンガルー館でござんいただけますので、希少種でもあるカンムリシロムクをぜひござんいただきたいと思っております。

これから寒い冬に入りますけれども、冬こそ繁殖活動に入る動物たちもおります。

前回の会議で残念な報告となってしまいましたが、シマフクロウやユキヒヨウの繁殖の成功に向け、この冬も取り組んでいく予定ですので、引き続き応援いただきますよう、お願いいたします。

○吉中議長 どうもありがとうございます。

ご質問は何かございませんか。

(「なし」と発言する者あり)

○吉中議長 時間もなく、駆け足でご説明をいただきましたが、何かございませんか。

○矢野委員 きょうの会議とは直接関係ないのですが、11月13日、動物逸走捕獲訓練ということで、宮の森大倉山連合町内会として三十数名が参加させてもらいました。

そこで初めて車椅子に乗ったのです。平地はいいのですが、レストハウスに行くときは坂でもう大変でした。全部にやれとは言いませんけれども、車椅子用にフラットにする面をつくらないといけないなと感じました。歩いては全然気になりませんが、車椅子で坂を上るのに大変な思いをしましたので、ぜひ検討をお願いしたいと思います。

○吉中議長 先ほどもそういう話が出ておりましたので、ぜひ考えていただければと思います。

転入・転出動物についてはよろしいでしょうか。

○有坂委員 エボシカメレオンは、8月13日に雄と雌が入ってきたと書かれており、9月18日に雌が死亡と書いてありますが、これは搬入したものが1カ月後ぐらいに死んでしまったということでしょうか。

○事務局(黒川動物診療担当課長) 死亡したことに伴って新たに導入したものです。

○有坂委員 でも、8月13日に搬入し、9月13日に死亡しているのですよ。

○事務局(山本飼育展示課長) 日付が間違っているかもしれませんので、確認いたしますが、1点が死んで、3点を入れたということです。

もともといたものが去年に死んでいて、3頭を入れました。この3頭のうちの1頭が死亡したということです。

○有坂委員 入れたものが死んでしまったということですね。

○事務局（山本飼育展示課長）　そうです。

○吉中議長　ほかにはよろしいでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

○吉中議長　皆さんの貴重なお時間を30分も超過させていただきましたが、以上で予定されていた議題は終わりました。

その他、何かございませんか。

○事務局（神経営管理課長）　補足させていただきます。

実施計画の中の収入や収支のところについてです。

正職員の給与、市債償還費は料金見直しのほうの資料には入っておりましたが、実施計画へは反映されておられません。そのため、数字が違いますが、ご了承いただきたいと思います。

また、きょうは来園者数について説明しておりましたが、今年度は、おかげさまで1割増となっております。赤色のグラフが今年度ですが、このようにお客様数が推移しております。

○吉中議長　ありがとうございます。

その他、ございませんか。

（「なし」と発言する者あり）

○吉中議長　それでは、これで議事を閉じさせていただきます。

最後に、次回のスケジュールについてお願いいたします。

○事務局（神経営管理課長）　それでは、次回についてです。

今年度中にもう一回やりたいと思っております。実施計画が固まるのが3月中だと思いますので、そのころを見計らって、3月上旬か中旬くらいにやらせていただきたいと考えております。

皆様の都合が悪ければ前後するかもしれませんが、そのように考えております。

○吉中議長　ありがとうございます。

それでは、事務局に進行をお返しいたします。

4. 閉　　会

○事務局（加藤円山動物園長）　皆様、活発なご議論をありがとうございました。本日いただいた意見を踏まえ、我々の責任の中で料金を決め、議会に提案することになります。すごく活発な会議でうれしく思います。

話を聞いている中で個人的に思ったのは、数字を掘り下げ、経営についてご意見をいただくことも有意義なのかなと思いましたので、事務局内で検討したいと思っております。

本日は、長時間、ありがとうございました。

またよろしくお願いいたします。

以　　上